

しよしや通信

○新年に向けて

vol.11 平成25年1月

あけまして、おめでとうございます。

でも、本当におめでたいのかな？ 去年は心の落ち着かない一年でした。震災の復興はまだまだです。原発事故の解決は目処がたちません。止めている原発が動かなければ停電と値上げになるかもしれません。領土の問題はどうなるのでしょうか。デフレのままで景気はよくなる兆しがありません。年末に政権が変わりましたけれども、これが吉とでるのだからどうか。

ただし、山中教授のノーベル賞は喜びでした。たいていのノーベル賞は過去の業績にあたえられるものですが、今回のiPS細胞へのノーベル賞は未来に向けての受賞であったと思います。これから、難病の研究や、新しい薬の開発が進んでいきます。そして、遠い将来には自分の内臓の複製が作られて、悪くなったものと取り替え手術ができるようになるかもしれません。実は、私は山中教授の先輩です。と、いいましても同じ大学の出身というだけで、彼が入学した年に私は卒業しています。受賞のニュースが流れて以来、こんなことを言う人が日本中にたくさんいるでしょうね。

山中教授が研究を目指したのは、最初の志望の整形外科での手術が下手すぎで、臨床の道をあきらめたと、伝わっております。謙遜して、おっしゃっているのかと思っていたのですが、大学内で伝わってくるところによると、それは真実だったようです。

最近、姫路の病院のある先生の講演を聴きました。2年ほど前から勤務されている、男性不妊で世界的に有名な泌尿器科の先生です。少し前にテレビでも拝見いたしました。この先生が若いときに、教授から同僚と共に、二つの研究テーマを与えられました。お二人で話し合いの結果、ジャンケンでどちらを選ぶかを決定することになったそうです。ジャンケンで負けて、今のお仕事である男性不妊の研究を選ぶ羽目になってしまったとのことでした。

手術が下手だからノーベル賞を取れたわけではなく、ジャンケンに負けたから世界の第一人者になれたわけでもないでしょうが、なにがきっかけで、人生が変わるかもしれません。さまざまな不安のある去年でしたが、今年はいい方向に社会が向かってくれることを願ってやみません。

なお、私どもの病院は今年も粛々とがんばって参ります。地域のみなさまに役立つことができるように、いろいろな取り組みをしてみたいと思いますので、支援助いただきますよう、お願いいたします。